



## 大阪弁トーク

「最近は台湾有事とか敵基地攻撃能力とか GNP 2% 越えとか物騒な言葉が飛び交っていますなあ」

「台湾有事って戦争の時代の言葉みたいですよ」

「九条には国際紛争を解決する手段として武力を放棄するってありませぬ。台湾問題は国際紛争そのものやおませんか。日本の国土と関係ないわ」

「それに台湾は中国の一部だと日本政府は正式に認めている。1972年に中華人民共和国と国交を結び台湾と国交断絶しました。」「そりゃ知らなかった、憲法上も国際法上も武力行使なんかできません。」「わて、台湾好きでせう」「私も好きです、中国政府が台湾を苛めんといてほしいと思います。けどそれは外交力で解決するしかない。武力介入なんかしたら大変ですよ」

「ところで、敵基地攻撃能力ってなんですか？」

「先制攻撃能力という言葉があります。『相手が打つ前に打つ』ということでこれは国際法で違反です。敵基地攻撃能力とは『相手がミサイル打ってきそうだから先に打てるようにする』と言うのですが、どこが違うのかと思います」「ちがわへん、ちがわへん」

「GNP1%から2%にするということは、ほんまは軍事費を2倍にするということと同じですよな？」

「そうです。手始めに今年は5兆4千億、年末の補正予算の分を合わせて6兆を超えました。史上最高です」

「思いやり予算も増える、辺野古基地も作る」

「それなのに沖縄や岩国の基地にコロナ持ち込むなんて。どないかなりませんか」

「米軍兵士は日米地位協定のお陰で入国フリーパス」

「まず日米地位協定改定せなあきませんね、ドイツ・イタリアみたいに。憲法いじくる言うてる人ら、こっちこそ変えなあかんのに」

「それどころか憲法を変えて戦争する国にしようという動き激しくなりました」

「それは許したらあきまへん。」

「今年は参議院選挙です。自民党より右といわれる維新も増えたし、立憲主義勢力ががんばらな！」

「わたしらもがんばらな！」「平和憲法守ろう！」

## 8月 ピーストーク

著者と制作者のトーク再現

NHK 終戦ドラマ

「ひかたがなかったと言うてはひかんのです」

原作「九州大学生体解剖事件七〇年目の真実」岩波書店

### 著者の思い 熊野以素

軍の命令か医の倫理の逸脱か。終戦直前、九州大学医学部で行われたおぞましい「実験手術」より米軍捕虜8人が殺された。当時助教授であった著者の伯父はこの実験手術に抵抗し、4回あった手術のうち最初の2回（正確には1回半）であったが戦後の戦犯裁判で首謀者として死刑判決を受けた。伯父は苦悩の末、死を壽輸する心境に達したが、妻である伯母は様々な妨害をはねのけ再審査を闘う……。

軍も大学も無関係、医師たちの勝手な行動とされたこの事件の真相はなんだったのか。伯母が残した手記と伯父の獄中日記、国会図書館所蔵の米軍の戦犯裁判の膨大な記録（マイクロフィルム）のコピーを読み解くことによって、事件の真相を明らかにした。

**1章と2章 戦争犯罪** 事件が西部軍と九大医学部共同の戦争犯罪であることを検証。

**3章 罪の自覚** 裁判の経過と揺れ動く伯父の心境を描く。反対したのだから罪にはならないと考えていたのが、生体解剖は許しがたい犯罪である。その場にいただけでも罪があるという林博士の証言に衝撃を受け「自分は人非人」であるとまで自己を責め、一切言い訳をしなくなる。これが弁護団に巧みに利用され自殺した教授の代わりに首謀者にでっちあげられる。

**4章** 裁判に不正があったことを許せない伯母は再審闘争を開始する。一方死刑棟の伯父は止められなかった責任、2回目反対したのに最後になって実験手術の部屋に入っていった自分の弱さを直視し、死を 수용する心境に達する～

このあとは本をお読み下さい！

（次ページへ続く）



## 伯父から教えられたこと

- ・伯父は自己の罪を認め償った。これが戦争責任の取り方。日本政府は果たして責任を取っているだろうか。
- ・伯父の言葉

「憲法 9 条の解釈はただひとつ。憲法を作った時に立ちかえればすぐわかる。日本は永久に戦争を放棄したのだ」著者の原点。

「どんなことでも自分さえしっかりしておれば止められる。仕方がなかったなどとゆうてはいかん」戒めの言葉として著者の心に深く刻まれている。



伯父と記念の 1 枚

## プロデューサーの思い

戦争体験を語る世代が退場していつている。若い人には戦争は遠い昔の話と受け取られがちだが、実は日常とつながっている。なんとか現代に響くドラマにしたかった。2 回目手術場に入ってしまうシーンが重要。理不尽な上司の命令、いけない事だと反発しても、抵抗しても、結局押し切られてしまう、今もおこっているじゃないですか、この一年・・・

「しかたがなかったとゆうてはいかんです」

**お願い** 頑張っってよい作品を作ろうとしている現場に応援を！「よかった」とコメントを NHK に！

## 芸術祭優秀賞・授賞理由

自身の米軍捕虜の生体解剖の「加害」の罪から目を背けず、真摯に向かい合う主人公の誠実さに胸を打たれる。戦争は、人間を容易に「狂気」に掻き立てる。その意味では、このドラマは今を生きる私たちにも重いテーマを突きつける。「人間の命に対してしかたなかったと、決して言うてはならない」という主人公のセリフは、いつの時代にも通ずるものだ。

### 9 と 25 市民講座のお誘い

2 月 憲法カフェ

「リアルタイム・憲法をめぐる情勢」

日時 2 月 20 日（日）1 時半から 4 時頃  
場所 くらしかんイベントホール 会費 500 円



## 豊中市立図書館の歴史と現状

安達みのり

豊中市立図書館は戦時下の 1945 年 3 月に開設されました。市の職員やトップの人達が「すべての市民に本を読んで文化に慣れ親しみ、学習してもらいたい」と戦中戦後の物資欠乏の中、熱い思いと創意工夫で豊中図書館の歴史を切り拓きました。更に 1950 年には市内隅々まで本が届くよう、公立図書館では我が国最初の動く図書館の巡回貸し出しに着手したり、図書館協議会を発足させるなど“図書館は民主主義の砦”と言われるにふさわしい輝かしい歴史を築いてきました。

1970 年代に市内各地に生まれた子ども文庫は、子どもの旺盛な読書欲に押されて、当時一館しかなかった図書館行政の貧さに声をあげ、1975 年の庄内図書館に始まり千里図書館、野畑図書館等々今日の図書館網になる役割を果たしました。現在豊中図書館は 36 km<sup>2</sup>の中に 9 図書館と 2 図書室、16 の動く図書館のステーションを擁し、35%の市民が登録。市民は図書館が身近にあり、生活の一部であることを当たり前としてきました。市民アンケート結果でも、市民が利用している公共施設として図書館が 1 位となっています。



### 〈 中央図書館基本構想 〉

昨年 2 月中央図書館基本構想が策定され発表されました。策定の目的は 1. 社会変化に伴う将来的なニーズへの対応として中央館機能の拡充と強化。 2. (公共施設等総合管理計画に基づく床面積 2 割の削減) と (図書館費市民 1 人 2600 円→2000 円) の実現。現岡町図書館は廃止、新たに 2028 年頃までに豊中～曽根間に新設。野畑図書館にある書庫機能を中央館に移転。それらに伴って市全域の図書館網を縮小・廃止もふくめて見直し。その中に『野畑図書館が無くなる』とはどこにも書かれていませんが、日常的に図書館を遣い、地域のサロンとしてきた周辺の市民にとって、“野畑はどうなるの？” “野畑がなくなる!!”と危機感が拡がったのは当然の事だったと思います。この構想が出た時、図書館関係団体には説明がありましたが、一般には説明の機会はありませんでした。あれ

ば真偽の程を確かめることが出来たでしょうに。更に言えば、86 頁にも及ぶこの構想は役所的には落度の無いものかも知れませんが、長年市民とともに創ってきた図書館としては心の通わないものに思えてなりません。

既に社会がデジタル化に大きく舵を切っている今、新しくできる図書館で市民がデジタル社会に取り残されないような環境づくりと、そこで繰り広げられる図書館活動の夢を語ってほしかった。“こんな図書館をみんなで作りませんか？そのために中央図書館はこんな規模で、こんな機能を、市全体の図書館網は…”と 夢を語り、それを裏付ける中央図書館基本構想ならば市民はエールを送り、支援の目で一緒に考えたいでしょう。

## 〈 市民活動 〉



12/22 図書館集会@地域共生センター

今市民は長年図書館づくり活動を続けてきた「豊中子ども文庫連絡会」「豊中図書館の未来を考える会」の他に「豊中の図書館文化を考える会」「豊中の図書館を未来につなぐ会」そのランチ等ができ、其々に公開質問状や要望書を出したり署名活動を繰り広げています。16 年前 9 条を護ろうと「いちばん星」が発足し、その後どんどんと増えていったように、図書館を守る会の活動は自然派的に広がっています。

「豊中の図書館を未来につなぐ会」は暑い日も寒い日も図書館の前で署名活動を続けておられます。署名をお願いすると、皆好意的に話を聞いて下さるとメンバーの方は大感激です。豊中の図書館がこれ程市民 1 人 1 人のものになっていたのかと私も感動。人が心を揺さぶられ、人に伝わる。それこそ市民活動の真髄です。このところ市議会での図書館論争は停滞し、経済効率ありきの発言の強さに危機感を募らせています。しなやかな市民力でこの難局を乗り越えることができればと願います。

## 遺骨で埋め立てをするな！

### 豊中市議会も「意見書」を全会一致で採択！

松岡幹雄（市民連合・豊中）

日本という国は誰かを犠牲にして成り立っている国だ。沖縄への米軍基地の押し付けはその典型と言ってもいい。「負担軽減」されるどころか犠牲はひどくなる一方だ。太平洋戦争末期の沖縄戦では、住民を巻き込んだ地上戦が 3 か月にも及び、本島南部を中心に 20 万人以上が犠牲となった。いま、政府はこの沖縄戦戦没者の遺骨が混じった土砂を米軍基地建設のために掘り起こし、埋め立てに使おうとしている。人間のくいのちや尊厳へのこれほどまでの冒涇は許されてはならない。

### 辺野古新基地建設と遺骨土砂

辺野古沿岸部への土砂投入が始まってまる 3 年が経った。完成の見通しは全くない。建設予定地に軟弱地盤が広がっていることが判明したからだ。沖縄施設局は、軟弱地盤対策として設計変更を県に申請した。砂などで作った杭（くい）約 7 万 1 千本を海底に打ち込んで地盤を固め、さらに新たに約 353 万 3 千立方メートルもの海砂の採取を進めるという。埋め立てには大量の土砂が必要なのでそれまでの本部・国頭地区だけでなく沖縄戦で犠牲となった人々の骨が残る本島南部や宮古島、石垣島を含む 7 地区 9 市町村の土砂を使うというのだ。

### 地方自治体での意見書採択運動

昨年 4 月、沖縄県議会が国に「沖縄戦戦没者の遺骨等含む土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書」を全会一致で採択した。また、遺骨収集ボランティア（ガマファー）具志堅隆松さんらが、防衛省との交渉、沖縄県庁前等でのハンガーストライキ、全国の地方自治体への陳情など運動を始めた。これをうけ全国でも意見書採択のための運動が始まった。大阪北摂では 6 月議会で茨木市が全会一致で採択、吹田市は維新の会が反対したが賛成多数で意見書が採択された。

### 豊中市での意見書採択をめざしたとりくみ

私たち市民有志は、9 月議会での採択を目指して取り組みを開始した。沖縄県出身者等を中心に 7 名が請願者となり市民請願書の採択をめざした。もちろん、市民請願でなく会派提案でもいいというスタンスで提出前に会派の意向を確認した。その結果、自民・公明は継続審査を求める。維新の会は反対。市民フォー

（次ページへ続く）



ラム、共産党は、賛成。無所属会派は検討中ということが判明し、全会一致での意見書採択は困難であることがわかってきた。私たちは市民請願という方法を選択し、大町議員、五十川議員、木村議員に紹介議員を引き受けてもらい8月25日手続きを行った。

9月7日の市民福祉常任委員会では、私たちの市民請願の扱いについて審議が行われた。その結果は、採択とも不採択ともならず「閉会中の継続審査」という扱いとなり、9月議会での採決は実現できなかった。

10月12日、豊中市議会市民福祉常任委員会が開かれ、継続審議が行われた。結果、こんどは一転して全会一致で採択された。その後、意見書文案の協議が行われ、2点修正を加え文案が取りまとめられ、全会派の賛同が得られ委員会として確認された。これをうけ、12月議会の初日である11月29日の市議会本会議において市民請願による市議会意見書が全会一致で採択された。豊中市議会では画期的な出来事だった。

### 豊中市での採択の教訓

10月12日、市民福祉常任委員会で採択された背景には、大阪市や堺市での採択で情勢が変化し、公明党に始まり自民党、維新の会が賛成へ態度を変化させたことがある。また、豊中市在住・在勤のウチナンチューやその家族7名が請願者となったことや立憲民主党や国民民主党の市会議員らで構成する会派「市民フォーラム」が全面的に協力したこと、様々な市民や市民グループが一致結束して意見書採択を最優先に粘り強く推移を見守ったことなどが今回全会一致で採択できた主な要因ではないかと思う。

### 沖縄県民とともに

意見書は、12月20日までに沖縄県以外で122の地方議会が採択している。沖縄を含めると165以上の自治体で意見書をあげている。「遺骨で埋め立てをするな！」の意見書の採択が今後全国で広がることを期待したい。

いま、沖縄は大変な事態になっている。キャンプ・ハンセンで大規模なクラスターが発生し、オミクロン株への感染が広がっている。米軍基地が感染急拡大の引き金になったことは明らかだ。「日米地域協定」という植民地法によって米兵が持ち込むウイルスが沖縄や岩国の基地から日本全土へ広がり続けているのだ。政府は、「憲法」ではなく「日米地位協定」こそ改正すべきだ。

今後も沖縄県民とともに声を上げていきたい。

### ＜いちばん★おすすめの本＞

人新世の「資本論」 斎藤幸平著（集英社新書）

ワクチンも打ったし、さあ今年は皆で新年会しよう、旅行にも行こう！と楽しみにしていたのに、またまた新種株の登場😞 この地球上で人類だけに振り掛かるこの災禍は、何を意味しているのでしょうか？

人間がいかに罪深い生物か、そしてこのままでは地球環境が取り返しのつかない所まで来ていることを訴えているのがこの本です。そして、このギリギリの段階で生き延びる唯一の道が「資本主義を捨てる」こと。経済を自由市場から市民の「コモン」（共有財産）に取り戻すこと。

読み進みながら、昨年豊中で開催した学習会「コモンで何やる？」を思い出して、改めてこの方向性の大切さを実感。そして、本棚の奥から内橋克人さんの「共生の大地－新しい経済がはじまる」を引っ張り出してきて、ああ25年も前から声を上げてくれていたのに・・・と。

経済学の素人の私には少々難しい部分もあるけど、このような本が「新書大賞」をとったこと自体、未来への一筋の希望と言えるかもしれませんね。（筒井百合子）

2021年、長引くコロナ禍で活動は制約されましたが、地域の平和ネットワークの中で、できることを行ってきました。ご参加・ご協力いただきました皆様ありがとうございました。2022年もよろしく願いいたします。

### ＜カンパの送金先＞

郵便貯金 口座番号:00980-4-116244  
加入者名:九条の会・豊中いちばん星



九条の会・豊中いちばん星 連絡先

FAX: 06-6849-0251 Eメール: yuriko99@nifty.com

〒560-0021 大阪府豊中市本町 1-1-1

市民活動情報サロン気付

URL: <http://9jo-ichibanboshi.jimdo.com/>